

黒埜町の音

黒鳥役者の話

大正半ば、元「黒鳥役者」が巡業の一座に刺激され、飛び入りで芸を披露。

大正六、七年ころのある日「黒鳥二番組の平七(保前一郎)の家へ役者が巡業に来たすけえ、見に来てくらしやれと触れが回された。今のようにテレビなどの娯楽がほとんどなかったそのころ、よく旅回りの「劇団」や「せせ」などの唄歌いが、黒鳥や北場などの小さな村々にまで巡業にやってきました。

在は白根市)からの一座で、一座とはいっても本職の芸人ではなかった。本業は農業だったが、そのころ、水害などで不作の年が多く、少しでも収入を得て生活の足しにするため唄や芸を習って、近隣の村々を回ったのである。月瀉村に残る角兵衛彌子もこのようにして始められた。

この日もチトセさんと惣一さんたち、小さな子供から年寄りまで、大勢の人々が平七の家に集まった。

座敷を舞台に、右隣りの寝間が楽屋、座敷に続く幾部屋かは全部開放して観客席とな

それはこの四人が、かつては「黒鳥役者」で鳴らした芸達者であったからである。

昔、黒鳥にも近隣に知られた「黒鳥役者」と呼ばれた一座があったというのだが、当時はもうこの人たちの大半が高齢となり、巡業は明治末期のころにやめ、以来芸能活動の途絶えていたところ、東萱場の人たちの芸を見て四人の芸の虫が騒いだのだろう。

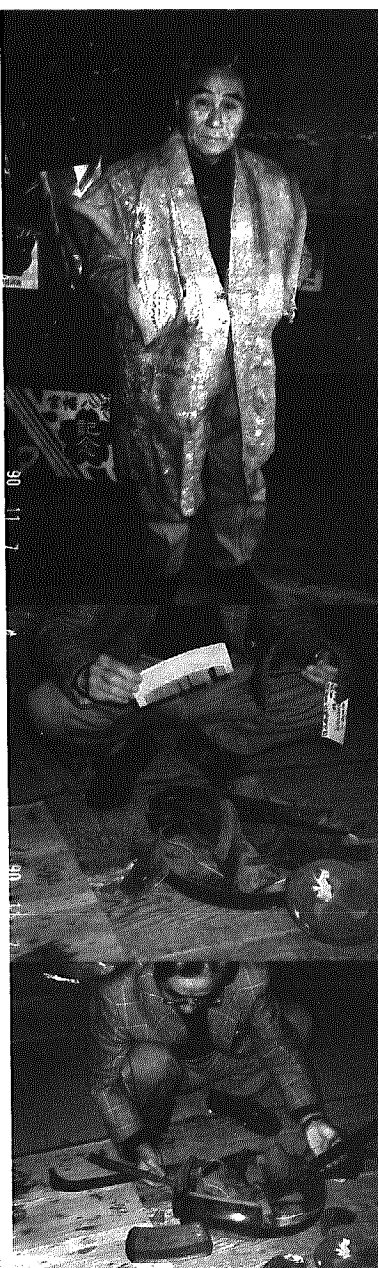
黒鳥の古老の中に、昔黒鳥役者の演じた得意芸を覚えていた人がいた。それによると、唄は「松前追分」から「伊勢

音頭「越中おはら」安来節。歌舞伎では「忠臣蔵」がもっとも得意だったという。「忠臣蔵」は十二段目まであり、そのうちの何段目かの一場面。

一両の金で、一番組栄七のちち(女形)扮する「お軽」が売られていき、その金を悪人、源蔵のちち扮する「定九郎」が、お軽の父、二番組権太郎のちち扮する「与市平衛」から「その金よこさぬとたたつ斬る」と刀を振り上げ斬り、金を奪う情景。

同じく「忠臣蔵」の何段目か終わりの方で、無事仇討本懐を遂げた義士の面々が「いんや半官(浅野内匠頭)の墓前にぬかずいて亡き主君に報告する」とき、半官の墓をぐらぐらと揺らし、これが黒鳥役者の十八番で、いつもこのとき拍手がさざいだたという。

これら黒鳥役者のことを知る人は前に記した那須野惣一さんと保前チトセさんらのほかには黒鳥にもほとんどいなくなつた。かつて、天保期



緒立八幡宮の宝物殿に収蔵されていた黒鳥役者の道具類。写真上/「翁」の着物。着ているのは江端義栄さん。写真中/道具類。右手に櫛、左手に欠けた。床の上にあるのは組立て式の三味線。写真下/三味線の毛が抜けている。写真左/髪。かなり髪が抜けている。写真右/髪。かなり髪が抜けている。

のころに黒鳥役者の中でも知られた権次郎おやじの後裔にあたり、このことに深い関心を持っている一番組の江端義栄さんは、「黒鳥役者がいつころから、どうしてできたか、など正確なことはわからないが、月瀉の角兵衛彌子のように、生活のための出稼ぎとして江戸時代の中期ごろからではないか」、また「黒鳥役者に、伊勢音頭や越中おはら、松前追分などが取り入れられていることからみて、おそらく上方から秋田、青森あたりまで、ほとんど全国を回っている。の際おぼえてきたものもあるのだろう」と話している。

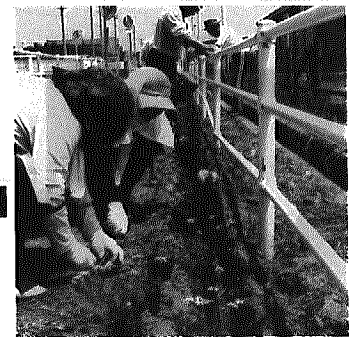
巡業するからには、当然二十人前後の人たちだったろうから、衣装や道具類もかなりあり、テレビの旅芸人のような荷車に積んで運んだものと考えられる。

今はなくなつたが、役者たちの道中手形のようなものが村にあったということである。先日、筆者は江端氏と緒立八幡宮の宝物殿で、昔、黒鳥役者の使った三味線や、もう髪の毛の抜けた町人の髪や、また芸に使用したと思われる翁の着物を見ることができた。

(上の写真参照)
執筆・宮田栄門(諏訪町) 取材協力・那須野惣一、保前チトセ、江端義栄(敬称略)

ニ/ユ/ー/ス/足/報/

毎月15日ごろまでにご連絡を
5月22日(水)、寿学級の皆さんが多目的広場わきの町道須上線歩道にバネナ、マツバギクなどの花を植えました。



善意の志
※高橋四郎さん(木場八割)が身体障害者福祉に十万円を寄付。
※高橋正樹さん(新潟市)が大野小の楽器購入に五十万円を寄付(元大野小学校長・高橋政一さんの香典返し)。
※黒埜山草の会が展示即売会売上金三万三千元を町福祉協議会に寄付。
※鈴木基衛さん(善久)が三十万円を町社会福祉協議会に寄付(父・源吾さんの香典返しとして)。

スポーツ会

◆銃剣道奉納護国神社大会
(5月5日、新潟市護国神社)
▼団体戦 3位・黒埜支部(古俣侃、石川弘、桜井三作)

◎第69回碁友会碁大会
(4月29日、大野聞念寺支坊)
▼A級優勝・木口正雄
▼B級優勝・池田 匡
▼C級優勝・溝淵慎俊
※次回は7月28日に大野聞念寺支坊で開催します。多数ご参加ください。☎木口正雄 ☎377-2218

◆第23回黒埜町少年相撲大会、第6回わんぱく相撲黒埜場所
(5月19日、大野諏訪神社相撲場)
▼4年生の部 優勝・笹川詔児(立仏小)、準優勝・吉澤正幸(木場小)、3位・小松元気(大野小) ▼5年生の部 優勝・広瀬雄一(板井小)、準優勝・大越崇智(山田小)、3位・古寺浩実(大野小) ▼6年生の部 優勝・岩田雄樹(立仏小)、準優勝・五十嵐康昌(木場小)、3位・鈴木弘武(大野小)



近代文学講座

私の出会った作家と作品
近代文学の研究者として有名な若月忠信先生(新潟東高校教諭)を迎えて、黒埜町公民館では「近代文学講座」を開設します。かた若しくなくだれにでも楽しめる講座が目標です。
開講日 7月4日から毎月第1木曜日(8月は8日) 夜7時~9時 来年3月まで10回シリーズ
会場 黒埜町公民館

大にぎわい・親子まつり
五月十九日(日)、黒埜おやこ劇場主催の親子まつりが、農村環境改善センターで開かれました。内容は、二本松をはじめと全レク一座のコンサートをはじめ、紙芝居、絵本やジュース・焼き鳥などの模擬店など。参加者は親子あわせて約五百人。改善センター内は一日中、子供たちのにぎやかな声でいっぱいでした。

旧北国街道を南へ、南へ
今年で四回目を迎え、毎回好評の「旧北国街道を歩く」、今回は五月十九日(日)、寺泊から柏崎まで一日の計画でしたが、雨のため途中の出雲崎で徒歩からバスで柏崎へ向かい、とちん館を見学しました。
今年も定員オーバーで参加できなかった人も、なお来年以降もこの「旧北国街道を歩く」は実施される予定です。

近代文学講座

中央公民館
テーマ 近代から現代の日本文学。水上勉、新井満、清水邦夫、中原中也、寺山修二、種田山頭火、金輪泳などの小説、詩、短歌などを取り上げます。
受講料 2000円(年間) 高校生以上とあなたでも。
申込み 申込書 問合せ 社会教育課